

つしま日本語教室 ボランティアの手引き

I 全体に

- ・言葉は通じにくいかもしれませんが、にこにこ楽しくすごしてください。
- ・ボランティアは1回だけではどんなものかわからないでしょう。
最低3回はやってみることをおすすめします。
- ・暴風警報など警報が出ているときは、お休みです。無理せず判断してください。
- ・学習者や他のボランティアさんのプライバシーは守ってください。
(写真撮影は原則禁止です)
- ・学習者や他のボランティアさんの電話番号などを聞くのは禁止です。
(相手から教えてもらったときはいいです)
- ・また、学習者や他のボランティアさんから電話番号などを聞かれても、
教えたくなければ断ってください。
- ・営利、宗教、政党の勧誘、セクシャルハラスメント、個人情報収集のための参加は禁止です。みなさんが安心して勉強や活動ができるよう、協力をお願いします。

II 日本語教室のボランティア

1. ボランティアの役割

①自分で講師をするとき

- ・テキストに沿って順番に勉強をします。
テキストに書いていないことは、やらない方がいいです。(必要な事を除く)
- ・講師が自分で説明するのではなく、学習者に自分で説明してもらうようにします。
- ・講師が話すのではなく、学習者が話す時間を増やし、理解度を確認します。
学習者に短い例文を作ってもらおうと確認もでき、学習者もよく覚えられます。

②講師の補佐

- ・いっしょに講師の説明を聞き、学習者がわからないときに個別で説明をします。
- ・講師が説明をはじめたら、講師に注意を向けるようにうながします。

2. ボランティアで注意すること

①自分もわからないときは、講師や教室コーディネータに聞きます。

②やさしく簡単な言葉で説明する

学習者は順番に日本語を覚えています。やさしく簡単な言葉で説明しましょう。
(基本的な単語をなるべく少なめに使って説明します)

③初級では、どうしてもわからない事、難しすぎる事はスルーした方がいいです。

3. これができると喜ばれる

- ①学習者の方が知りたい言葉を教えてあげると、喜ばれます。ノートやホワイトボードに書いて説明するなど、学習者が自分自身で覚えられるようにサポートします。